

東京の産業と教育

会 の 目 的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

東京の産業界や都民の期待に 応える専門高校を目指して

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長

山 本 謙 治



産業教育は、高度経済成長をはじめとして、我が国の経済発展を支える役割を果たしてきました。産業教育の一端を担う専門高校においても、これまで多くの優秀な人材を産業界に輩出し、日本経済の発展に大きく寄与してきました。また、生徒の勤労観・職業観を培い、職業生活に必要な専門的な知識や技術の基礎・基本を身に付けさせ、実習等を通じて社会的責任を果たし得る人間を育成するという責務を果たしてきました。

近年は、産業構造の変化や科学技術の進展等に伴い、職業の多様化や、職業人に求められる技術・技能の高度化が進み、専門高校に対する社会の期待はますます高まっています。このため、これまでも東京都教育委員会は、産業界を取り巻く状況の変化や生徒のニーズに応え、専門高校の活性化・特色化を図ってきました。しかしながら、社会の変化と期待に十分には応えきれず、志望状況の低迷、普通科と比較して高い中途退学率、目的意識が希薄なまま進学を選択している生徒の存在など、様々な課題を抱えている中、意欲と目的意識を持った生徒が希望する進路を、これまで以上に実現していくことが求められています。

これらの課題をふまえ、東京都教育委員会は、社会の期待に応え、将来の東京の産業を支える人材を育成する魅力ある専門高校づくりを一層進めていくため、平成 24 年 2 月に策定した「都立高校改革推進計画 第一次実施計画」において、専門高校の改善に取り組んでいくこととし、具体的な取組を進めているところです。

まず、生徒の技術・技能の習得に向けた取組として、昨年 4 月に「都立専門高校技能スタンダード」を策定しました。技能スタンダードでは、生徒の専門性の向上を図るため、高校在学中に身に付けるべき専門分野に関する主な技術・技能の目標や、生徒に取得を推奨する主な資格・検定について明示しました。そして、今年度は推進校 12 校において取組を先行実施しており、来年度からは全ての都立専門高校（職業学科）において実施することとしています。

次に、専門教育の見直し・充実に向けた取組として、昨年 12 月に、都立専門高校改編基本構想検討委員会を設置し、今後の専門高校の在り方に関して検討を進めてまいりました。そして今年 8 月、その検討結果を報告書としてとりまとめ、公表したところです。報告書では、都立専門高校の現状と課題、それらを踏まえた都立専門高校全体及び各学科の改善の方向性について示しています。今後は、報告書を踏まえ、より具体的な計画を検討してまいります。

このように、東京都教育委員会においては、都民の期待に応える専門高校づくりを進めるために様々な取組を行っていますが、こうした施策を実効性あるものにしていくためには、企業や学校等、会員の皆様のご支援やご協力が不可欠です。産業界、教育界、行政が一体となって産業教育の振興に取り組む本会と、東京都教育委員会の連携は、今後ますます重要なものとなってまいります。引き続き、会員の皆様のご意見、ご指導をいただけますようお願い申し上げます。

〈実践報告〉

人を育てる技術・家庭科

－ものづくりは人づくり 国づくり－

全日本中学校技術・家庭科研究会 会長

足立区立青井中学校長 池田 敦彦

1 第2期教育振興基本計画

平成25年6月に閣議決定された第2期教育振興基本計画の我が国の危機回避に向けた4つの基本的方向性の一つに「社会を生き抜く力の養成」があります。

このような力を身に付けさせるための教育は、「生きる力」、「課題探究能力」等の育成につながるものです。今後は個々の能力や特性に応じた学びを通じての基礎的な知識・技能の確実な習得や、子どもたち同士の学びあいや体験を通じた課題探究型の学習など、生徒の学習意欲や生活意欲、知的好奇心を引き出すような新たな学習形態の推進が求められています。また、指導した内容だけでなく、生徒が何を習得したのかという点を重視する必要があります。あわせて、持続可能な社会の構築という点で、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育成する「持続発展教育」の推進も求められております。

2 東京都の技術・家庭科教育

次代を担う子どもたちが問題の解決に主体的に取り組み、安心かつ安全な社会を構築していく力を身に付けられるよう、学習指導要領の趣旨を踏まえ地域や生徒の実態に応じた題材の開発や指導方法を工夫し、授業の充実と改善に取り組んでいます。

今年度の研究主題は「持続可能なよりよい生活や社会をめざし、自ら考え、行動しようとする生徒を育てる」としました。

平成23年度の全国大会（東京大会）、昨年度の全国大会・関東甲信越大会（千葉大会）の成果と課題を取り入れ研究を進めています。

学習指導要領が求める「生きる力」を、技術・家庭科を通じてすべての生徒に確実に身に付けさせるために研究活動を活性化させ、東京都の技術・家庭科教員一人一人の授業力を高め、子どもたちが生き生きと学習する姿を授業を通して客観的に検証しています。

研究活動では研究部が中心となり都内外の大学と連携しながら研究を推進し研究発表会を年2回開催するとともに関東甲信越大会でも研究

発表を行っています。また授業力を高めるため、東京都教職員研修センターの協力を得ながら8委員会でご実技研修を実施し教員のスキルアップを図っています。多くの教員が毎年これらの事業に参加しています。

さらに、事業部の担当する「創造ものづくりフェア in Tokyo」は今年度で12回目を迎えますが、平成26年11月に中央区立佃中学校、女子栄養大学を会場として、創造アイデアロボットコンテスト、木工チャレンジコンテスト、豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール、あなたのためのお弁当コンクール、生徒作品コンクール等を実施します。毎年多くの生徒が参加し、関東・甲信越大会、全国大会へと出場しています。

3 全日本中学校技術・家庭科研究会

全日本中学校技術・家庭科研究会では、本教科が持つ使命を果たすためには、現在の授業時間や授業形態、免許状保有状況等が十分であることを検証し、次回の改訂で授業時間増の必要性を多くの方々に伝えていきます。そのために全国での技術・家庭科教育の実態調査を2年にわたり実施してきました。その結果を各都道府県の研究会に周知するとともに各関係機関等に強く働きかけていきます。

また、本教科の有用性を具体的な生徒の姿で伝えてきました「全国中学生創造ものづくり教育フェア」は今年で第15回を迎えます。継続することが力です。各県・地区での大会開催関係の方々、関係諸機関の方々、また事業の運営を担当する関東甲信越地区各都県研究会の協力を得ながら、本年度も東京都で開催します。平成27年1月24日（土）、25日（日）に東京都江東区新木場タワー、木材会館、女子栄養大学を会場にして、技術・家庭科における生徒の学習成果発表と本教科への理解を深めていただく場として、一層の充実に努めていきます。多くの方にご参会いただければ幸いです。

*全日本中学校技術・家庭科研究会 <http://ajgika.ne.jp/>

職業教育と人間教育をテーマに ～生きる力を育てる取組～

学校法人武蔵野東学園 武蔵野東高等専修学校

校長代行・進路指導部長 渡辺 正司



1 はじめに

本校は、昭和61年に開校した3年制の私立高等専修学校（専修学校高等課程）である。職業教育（キャリア教育）を主としたカリキュラム編成で、文部科学大臣より大学入学資格を付与されている。社会的に自立するために職業技術や専門知識、そして人間としての基礎的な教養や生活力を身に付け、実社会や上級学校に進むことを目指している。学則定員1学年75名・総定員225名の小さな学校である。

なお、本学園には、幼稚園・小学校・中学校が併設されており、3歳から18歳まで、1,675名（うち自閉症児468名）の園児・児童・生徒が学んでいる。一貫して健常児と自閉症児が同じ環境の中で学びながら、相互に影響し合い、ともに成長していくシステムである「混合教育」を展開している学園である。

2 特色ある教育カリキュラム

（1）総合キャリア学科の魅力

本校の総合キャリア学科には、絵画、陶芸、体育、調理・製菓、ファッション、情報ビジネスの専門6コースと大学受験コース（2年次後期から）が用意されており、一つの分野を専門的に究めたい、たくさんの経験をしてみたいなど、一人一人の希望に応じて自由にコースが選択できるよう、学期（前期・後期）毎にコースを選択できる専門コース自由選択制を導入している。幅広い職業教育カリキュラムに触れ、多種多様な検定資格を取得し、将来の進路・生き方につなげられることが第一の魅力となっている。

（2）生きる力を育てる様々な教育活動

机上の学習に留まらず、学校行事（スポーツ大会・林間学習・学園祭・合唱コンクール・スキー教室等）、生徒会活動、部活動、ボランティア活動等の様々な教育活動にも力を入れている。諸活動において生徒一人一人が役割を担い、皆で力を合わせて一つ一つの活動に取り組んでいくことで、経験値を積み重ねていく。その積み重ねこそが生徒の生きる力を育てることにつながっている。

3 夢に向かってステップアップ

一人一人の個性・適性を見だし、きめ細かい生活指導とともに1年次から進路指導を展開している。2年次9月に進路説明会を開き、その後企業等でのインターンシップ（就業体験）や上級学校訪問等を経て進路の方向性を定め、3年次の進路活動に備えるようにしている。夢実現のために、一人一人に寄り添い、充実したサポート体制がある。また、卒業後の進路決定のために、学内にあるチャレンジショップでのインターンシップ^(※1)、模擬面接、租税教室、保育体験実習^(※2)等様々な体験の場を提供し、生徒に社会と自身との関係をより理解させる進路活動を推進している。本校では、進路の方向性としてフリーターを認めない方針であり、さらに進路決定が全てではなく、その先を見据えた進路指導の展開に心がけている。

（※1）チャレンジショップでのインターンシップ・・・本校では進路指導の重点目標に「職業観の育成」を掲げている。その一環として、学園内に『チャレンジショップ』という軽食喫茶のショップを開店し、生徒のインターンシップ（就業体験）の場を設けている。企画や運営、商品計画、仕入れ、会計、接客、販売等を体験することで、経済や流通の仕組み、さらには働く意義を学ばせている。

（※2）保育体験実習・・・本学園の「混合教育」の成果から卒業後の進路先として教育・福祉関係に道を定める生徒が毎年出てきている。そのような進路を考える生徒に対して、学園内の幼稚園の協力のもと、幼稚園で実務を体験する実習を実施している。

4 まとめ

本校では、生徒にとっての一つ一つの取り組みを、また日々の積み重ねを重視し、それらが生徒の将来につながる生きる力となると信じ、日々の教育活動を展開している。生徒たちが卒業後社会に巣立ち、いかに力を発揮させるかを常に見据えた教育活動でもある。校訓でもある「理想 VISION ～世のために役立ち 人々に必要とされる社会人となる～」を目指し、今後も本校の特色ある教育を展開していきたいと考えている。



〈実践報告〉

Design Your Dream

－自己の生き方を真剣に考え将来を切り開く力をつける学校－

東京都立王子総合高等学校

副校長 橋 田 進

1 はじめに

本校は、平成20年8月の「北地区総合学科高校基本計画検討委員会報告」を基に、都立で10番目に設置する総合学科高校として平成23年度に開校した。

総合学科高校の特色を生かし、多様で幅広い選択科目を設定している。また、学校生活全般を通して、将来の進むべき道について真剣に考え、行動できる人材の育成を目指すために、全教員がキャリアアドバイザーとなり支援を行っている。

2 総合学科教育を支える指導の柱

(1) 学習指導

5系列（①メディア・ネットワーク系列 ②ビジネス・コミュニケーション系列 ③工業・デザイン系列 ④伝統文化・工芸系列 ⑤スポーツ・健康系列）を基にした必修科目、学校設定科目、総合選択科目、自由選択科目の指導内容、指導体制を確立した。

また、授業規律の心得の徹底、朝読書の推進、言語能力向上拠点校として、全教科で「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」の4能力の向上等に組織的に取り組んでいる。

(2) 進路指導

3年間のキャリア教育を通して、卒業までに社会的・職業的自立のための能力を身に付けさせている。

また、キャリアアドバイザー制度が確立しており、全教員が生徒一人一人にキャリアアドバイスをを行い、進路を実現させている。

(3) 生活指導

生き方指導として、社会のルール・マナー・エチケット指導に力を入れている。特に、頭髪、服装、規範意識については、身だしなみ週間で厳しく指導している。

また、ノーチャイム、ノー放送の徹底により、生徒の自己管理能力と情報収集能力を高めさせている。

3 総合学科教育を支える教科の柱

(1) 「産業社会と人間」「人間と技術と環境」1年次

総合学科で全生徒が履修する「産業社会と人間」では、進路への自覚を深める動機付けと共に、生

徒自身の在り方生き方を探求させ、自己の適性や将来の職業を具体的に絞り込むことができる生徒を育成している。

本校が独自に学校設定科目として設置している「人間と技術と環境」では、各系列の基礎・基本に関わる内容を中心に、地域や関係機関との連携を図り、インターンシップ等多様な体験学習を実施して、生徒の科目選択、進路選択につなげている。

(2) 「奉仕」2年次

東京都設定教科・科目「奉仕」として、本校では、①高齢者福祉 ②防災・災害救助 ③教育 ④まちづくり ⑤障害者福祉 ⑥地域安全 ⑦環境保全の7分野で体験活動を行っている。なかでも、地域の方を対象としたパソコン教室や英会話教室、保健所と連携したエイズ啓発運動、絵本の点字訳等で地域に貢献している。奉仕での1年間の体験活動が3年次の課題研究のテーマや将来の職業選択になっている生徒も多い。

(3) 「課題研究」3年次

総合学科3年間の集大成としての「課題研究」では、生徒が各自の進路や興味・関心から設定した課題に対して、調査研究を行っている。考察を通して、問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を養うことができ、その成果を4,000字の論文にまとめ、12月に全員が発表している。その過程では、小論文ノートや閲覧用新聞の切り抜き等の作業を行うことで、知的好奇心を喚起させ、探究心や研究意欲の向上と、課題解決能力を高めさせている。

4 今後の課題

平成26年3月に、第1期生を卒業生として送り出したことで学校づくりの基礎を完成させることができた。進路実績、フェンシング部・射撃部が全国大会に出場する等の部活動の活躍、特別指導ゼロ等の大きな成果が得られた。今後は、これまで作り上げてきた学校の仕組や組織運営をしつかりと定着させ、難関大学への進学、国際理解教育の推進、身だしなみの向上等の課題に向け、保護者、地域と連携し、教職員が一体となって取り組んで行く。

エス・イー・シーエレベーター株式会社

本社 東京都台東区台東 3-18-3 ☎0120-83-1171
 代表取締役社長 西村 裕志 資本金 20 億円
 従業員数 950 名 創業 昭和 42 年 設立 昭和 45 年

【事業内容】

エレベーター・エスカレーター等、昇降機の保守・点検、新設、改修工事を主な事業としていますが、昨今は、LED等、エコ関連事業、太陽光発電パネルの設置他も行っております。
 営業拠点：150 超

昭和 42 年に創業し、エレベーター・エスカレーター等、昇降機の保守・点検を行ってきました。15 年前より、自社製のエレベーターを製造し、2 ダブルブレーキ等の開発も行ってあります。常に新しい技術を身に付け、安心してご利用頂けるエレベーターの開発・保守管理を実践しております。また、国内に限らず、海外にも自社製エレベーターの設置を行っております。

【青少年へメッセージ】

私達は縦の交通機関であるエレベーター等、昇降機を安心してご利用頂くために、徹底した保守サービスを提供し、顧客の満足を得て社会とともに発展することを目指しております。未来の日本の産業を担う皆様、勉強も仕事も「努力をした人だけが最後に満足を得ることが出来る。」という共通点があります。今できる事、どんな事でも精一杯頑張りましょう。



株式会社ツバサ・翼学院グループ

<http://tsubasa-gakuin.jp>

本社 葛飾区水元 2-7-3 TEL 03-5699-5283 (本社代表)
 代表取締役 芦澤 唯志 (産業教育振興中央会理事)
 資本金 1,000 万円 従業員数 36 名 創業 平成 20 年 11 月 5 日

【事業内容】

- ① 学習が困難な子のための学習塾“翼学院”の運営
- ② 児童発達支援・放課後等デイサービス“つばさクラブ”の運営 (東京都指定、東京都経営革新計画承認事業)
- ③ 学校法人 NHK 学園高等学校連携教育相談センター、高卒サポート校“翼学院高等部”の運営 (東京都地域中小企業応援ファンド採択事業)
- ④ 出版事業 (全国書店売上 No1 就職対策書籍「サクセス！一般常識&図解時事」(新星出版社)、「一か月で偏差値 20 伸ばす芦澤式学習法」(産学社)などの企画・著述)



【事業所】

青砥駅前校舎、水元校舎、東水元校舎、高砂校舎 (平成 27 年 1 月開校予定)

【経営理念】

「困難さを持つ子の“才能”を発掘して育むことを通じて、地域社会及び我が国に貢献する」

【青少年へのメッセージ】

「どんな職業についていたら良いかわからない」「自分が興味のあることがわからない」など将来について悩んだら、日々の生活や社会を眺めて直感的に感じることを書き留めてみてください。必ず進路や就職に関するヒントを見つけることができるはずです。そして少しでも興味があることを見つけたら、実際に企業を訪問して、自分の目で見て、耳で聞いて、仕事を肌で感じてください。本会の会員企業は、皆さんの自分探しを心から応援してくれるはずです。当社も体験、相談を歓迎します。

新 会 員 企 業 の 紹 介

国 光 施 設 工 業 株 式 会 社

〒144-0041 東京都大田区羽田空港 1-7-1 TEL 03-3747-7535
代表取締役 坂西 章
資本金 8,532 万円 従業員数 86 名

【事業内容】

電気工事、計装工事、電気通信工事、空調衛生設備工事の設計・施工管理

弊社は、1924年（大正13年）に電気工事の草分けとしてスタートし、その後、計装、通信及び空調工事と事業領域を広げ、今年11月で創業90周年を迎える設備の総合エンジニアリングの会社です。羽田空港、成田国際空港、関西国際空港等空港開港当初から、ターミナルビル・滑走路・整備場等関連設備、また、自動車・化学・食品・医薬品・バイオ・半導体関連のプラントや工場の施工実績があり、新設はもとよりメンテナンス・改修工事に対応すべく建設を担当した社員を中心に



■羽田国際線ターミナル

万全なアフターフォロー体制を敷き、担当した施設のライフサイクル全体に渡って、責任あるサポートを行っています。

また、昨今、環境問題、原発停止に伴う再生エネルギーへの脚光が高まる中、弊社は全国27箇所でのメガクラス太陽光発電システムの施工実績があり、お客様にとって最適なシステム構成のご提案から施工・メンテナンスまでトータルなサポートを行っています。

このように、弊社は、お客様の施設（電気・計装・空調・通信）を計画段階から、建設、メンテナンス及び施設の取り壊しまで、ライフサイクル全体に渡ってお客様をサポートするライフサイクルコントラクターを目指し、日々邁進しております。



■六ヶ所村太陽光設備

平成26年度 東京都産業教育振興会講演会 概要報告

「教育と教養が大切」

東京理科大学学長 藤 嶋 昭 氏

6月3日（月）に行われた総会の終了後、「教育と教養が大切」という主題で東京理科大学学長藤嶋昭氏をお招きして講演会を開催しました。

はじめに、「皆さん、今日は中学生や高校生になったつもりで『何か、質問してみよう』という気持ちで聞いてください」というご挨拶をいただき、以下のようなお話を伺いました。

○若い方々の理科離れが起こりつつある。日本にとって資源は人材しかない。科学技術でしか立国できない。若い人の理科離れをいかに防ぐかが最も大事である。だから「理科が好きだ」と



感じてもらい、「科学が面白い」ということを理解してもらふことや、身の回りのことに対して「面白い」、「不思議だ」と興味をもってもらうことが大切である。

○「空はなぜ青いか」「夕焼けはなぜ赤いか」「雲はなぜ白いか」など普段、当たり前になっていることや疑問に思っていることを生徒に教えてあげてほしい。そうすると全ての現象が生徒にとって面白くなる。

○小学校、中学校、高校の皆さんに、「いい本を読もう。いい雰囲気を作ろうよ」と話している。いい本を読んで感動することが大切である。

○一人だとできないけれども、複数の人が集まりいい雰囲気を作ると、特別なことや素晴らしいことができてしまう。

ご専門である光触媒のお話を伺い、実験もまじえた楽しい講演会でした。

活発な質疑応答が行われ、有意義な時間はあっという間に過ぎてしまいました。

（講演会内容の要旨につきましては、会誌でお知らせさせていただきます。）

『青総の魅力』

東京都立青梅総合高等学校

3年次 佐藤 美咲



私は今までの高校生活で部活動や生徒会活動、また青梅総合高校ならではの体験活動など様々なことに取り組んできました。

本校には、御岳山にセミナーハウスという宿舎があります。現在は3カ所となっていました。以前は演習林として使用されていた学校の林地がこの御岳山にあったからです。私は、里山ネイチャー同好会という自然と触れ合いながら人との交流を楽しむことを目的とした部活動に所属し、ここで宿泊や自然体験活動を行いました。この同好会の部員は現在、他の部活動と兼部をしている者が多く、そのためセミナーハウスの宿泊の際は、全校生徒を対象とする「緑のレベルアップゼミ」の参加者と共に活動しています。8月は紫陽花や秋海棠・レンゲショウマを觀賞しながら、周囲に広がる木の葉の間から射し込む光を浴びて、夏とは思えないほど涼しい時間を過ごすことが出来ます。12月には寒い中、氷の花を探し、夜には綺麗な流れ星を觀賞できます。時期によって目に見えてくるものが違うので、何回訪れても楽しむことが出来る場所です。もちろん、間伐や枝打ちなどの林業体験もすることができ、山の仕事の大変さや大切さを学ぶことができました。

そして、私は、2・3年次の8月には全校生徒が対象の『食農・自然環境体験 In 小笠原』の体験活動にも参加

しました。25時間半の船旅をし、上陸したときに見た風景は、海も空も色鮮やかに透き通っていました。同じ東京都とは思えない異空間です。島では、亜熱帯農業センターや農園の見学、シュノーケルや郷土料理体験を行いました。世界自然遺産ということで、固有種の生物や植物を外来種からどのように守り、種の保全を図っているのか、また、農園では島での循環型農業のお話を聞きました。シュノーケルや郷土料理体験では、島の人と触れ合いながら小笠原の魅力や知識を肌で感じました。

これらの活動を通して、先輩・後輩との交流を深めることもでき、将来の自分の財産になったと感じています。これからもこの素晴らしい活動を後輩達に続けていってもらうためにも、生徒会活動や部活動を通して青総の魅力を発信して行きたいと思います。



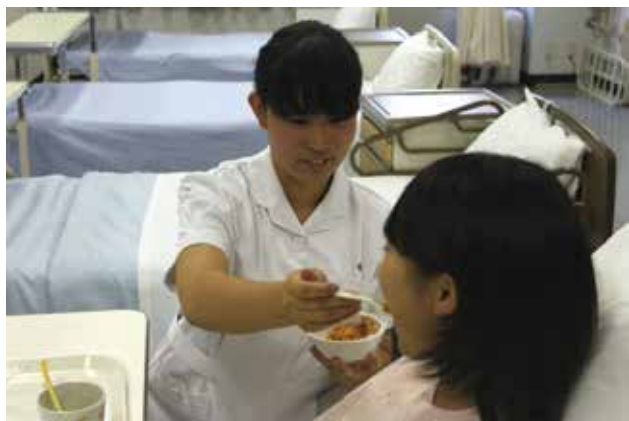
コミュニケーションの大切さを知って

東京都立野津田高等学校

福祉科 3年 渡邊 真衣

私が介護福祉士を目指すようになったきっかけは、認知症の曾父母の存在です。祖母と曾祖母が介護を行っている姿を見ていた為、少しでも家族の負担を減らしてあげたいと思い、野津田高校の福祉科に入学しました。

1・2年生の時の実習は、デイサービスセンターで行いました。当時利用者とのコミュニケーションの仕方が分からない私にとって困難な場面が多くありました。認知症の利用者とのコミュニケーションでは、言葉のキャッチボールが上手くいかずとても戸惑いましたが、職員



と利用者がコミュニケーションをしている姿を見て学んだり、職員からアドバイスを頂いたりすることで困難な場面を乗り越えることができました。職員からのアドバイスで「コミュニケーションは言葉だけでなく、表情や身振り手振りなどの動作も含まれる」というアドバイスを頂きました。言葉だけのコミュニケーションでは伝えきれない部分も身振り手振りなどの動作を使うことで伝わりやすくなると学びました。

3年生の時の実習は特別養護老人ホームで行いました。この実習では、利用者の生活を豊かにするための介護の計画を立てました。いい介護を提供するためには、利用者との信頼関係を築き、利用者に関する情報や求めている事を理解することが大切であることを学び、実習の終盤に、利用者から感謝の気持ちと笑顔をもらうことができ、私も嬉しい気持ちになりました。

コミュニケーションには人を元気づけたり笑顔にさせたりと様々な力、可能性があることを三年間の実習を通して学ぶことができました。私は、「一人ひとりに合ったコミュニケーションを行い、利用者の心に寄り添うことのできる介護福祉士」になりたいです。

平成 26 年度「作文コンクール」について

今年度の東京都産業教育振興会主催「作文コンクール」は 9 月 12 日の応募締め切りの後、選考委員による一次選考、二次選考を経て、下記の応募状況・入選状況一覧のとおり入選作品を決定しました。

今年度は昨年に比べて中学校からの応募に減少がみられましたが、専修学校の応募作品数が大幅に伸びました。全体では応募校数は 5 校、作品数では 6 % の減少となりました。

「作文コンクール」の表彰式は 12 月 19 日に都民ホールにて行われます。来年度も多くの作文の応募をお願いいたします。

【平成 26 年度 応募状況・入選状況一覧】

	応募校数	応募作品数	入選数	最優秀賞	優秀賞	佳作
中学校の部	28	134	19	1	3	15
高等学校の部	19	106	16	1	2	13
専修学校の部	4	23	5	0	1	4
総数	51	263	40	2	6	32

産学懇談会を開催しました。



産学懇談会は産業、行政、教育界の会員が一堂に会し専門高校等の産業教育の現場を見学することにより、産業教育に対する理解を深めることを目的としています。

今年度は 11 月 17 日に東京都立千早高等学校を会場に、21 名の参加を得て開催されました。林 修校長による学校紹介の後、校内見学や授業見学を行い、意見交換によって特色ある英語教育やビジネス教育についての理解を深めることができました。

平成 26 年度 東京都産業教育振興会 教育功労者表彰式

教育功労者表彰式は多年にわたり、東京都の産業教育に従事かつ尽力され、多くの功績を上げられた方々を表彰するものです。高等学校及び高等専門学校につきましては御下賜金記念産業教育功労者として公益財団法人産業教育振興中央会が、中学校については中学校技術・家庭科教育功労者、短大・専修学校については産業教育功労者として東京都産業教育振興会が表彰します。

今年度は 11 月 18 日(火)、都庁第二本庁舎において表彰式が行われ、高等学校 19 名、中学校 5 名の受賞者に対して本会会長より表彰状が授与されました。



事務局より

- 平成 26 年度会報「東京の産業と教育」第 147 号をお届けいたします。発行に際してご協力頂きました皆様に厚くお礼を申し上げます。
- 東京都の産業教育をさらに飛躍させるために活動するとともに、情報等をお知らせしています。会員の皆様からのご感想、ご意見などをお寄せください。

発行 東京都産業教育振興会
〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1
東京都教育庁都立学校教育課
高等学校教育課内
電話 03-5320-6729
FAX 03-5388-1727
印刷 昭和印刷株式会社

再生紙を使用しています
印刷用の紙にリサイクルできます